

# ジョイント仕立て用2年生苗木育成時における果そう葉の取扱い

## 1 情報・成果の内容

### (1) 背景・目的

樹体ジョイント用の2年生苗木を育成する際、1年枝部分は葉を5枚程度残して摘心を行っているが、その効果は明らかでない。そこで1年枝部分の葉の有無が苗木生育ならびにジョイント後1年目の生育に及ぼす影響を調査した。

### (2) 情報・成果の要約

- 1) ジョイント仕立て用2年生苗木育成時における1年枝部分の果そう葉を除去することにより、新梢伸長は促進される。その効果は除去時期が早いほど高い。
- 2) 果そう葉を除去して育成した苗木と果そう葉を残して育成した苗木のジョイント後1年目の生育に差は認められない。

## 2 試験成績の概要

### (1) 苗木の生育に及ぼす影響

- 1) 1年生の‘新甘泉’の苗木を2013年12月25日に20Lのポットに植え付け、2014年3月28日に120cmで切り返した。苗木は先端2芽のみ残して、残りの果そう葉は3月28日、5月8日にそれぞれ基部から除去した(図1)。慣行区の果そう葉は、葉を5枚程度残して摘心した。
- 2) 新梢長は、3月除去区、5月除去区、慣行区の順に長くなる傾向であった(図2)。1ヶ月ごとの伸長量は5-6月、6-7月間では3月除去区が多く、慣行区で少なくなった(図3)。

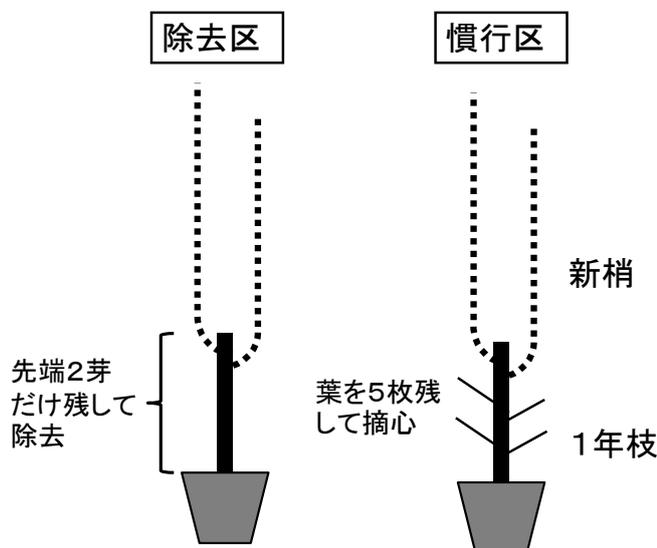


図1 各区の1年枝部分の葉の取扱い

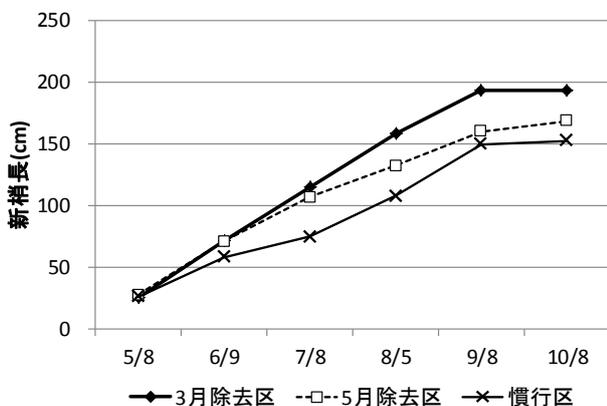


図2 果そう葉除去による新梢長の推移

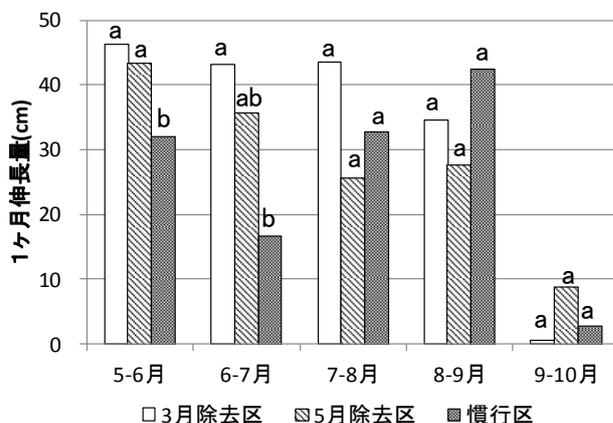


図3 果そう葉除去による1ヶ月伸長量の違い  
 ※図中のアルファベットは同一区間においてTukey-Kramer法の多重比較検定により異符号間に5%水準で有意差あり

(2) ジョイント1年目の生育に及ぼす影響

- 1) 果そう葉を除去して育成した‘夏さやか’の2年苗(除去区)と果そう葉を残して育成した苗木(慣行区)をほ場に定植し、4本ずつジョイントした。
- 2) 発生した新梢は除去区の方が短果枝率がやや低く、6~50cmの新梢が多くなった(図4)。

(3) 以上の結果、ジョイント用の2年生苗木を育成する際、果そう葉を除去しても生育に悪影響を及ぼすことはないと考えられた。

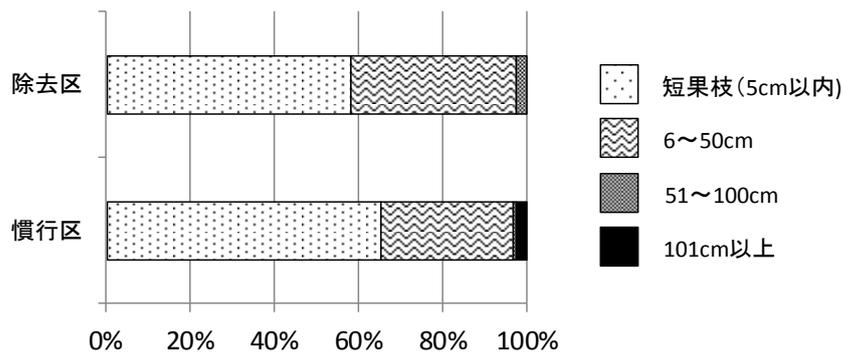


図4 苗木育成時の果そう葉除去がジョイント1年目の新梢に及ぼす影響

### 3 利用上の留意点

- (1) 果そう葉の除去は萌芽を確認後に行う。

### 4 試験担当者

果樹研究室 研究員 田邊未来  
室長 池田隆政